

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第13回）「心の教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成22年8月2日(月) 午後2時00分～午後4時30分	
会場	練馬区役所東庁舎4階 401会議室	
出席者	委員	生越詔二、石原正義、佐野純夫、濱元雅俊、相田真人、小林昭文、鈴木芽吹（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	小坂橋悦子 指導主事

1 はじめに

アドバイザー

なかなかユニークなものができそうな予感がしている。これをさらにブラッシュアップすることになると思うが、お願いします。

それから、最近の新聞を見ていると、子どもの心のあり方とは、大人の心のあり様の反映であると感じている。言葉を換えて言えば、子どもの心のあり様は家庭が大きい。

2 協議

事務局

それでは事務局から。先生方の資料は印刷をし、学年順に並べてある。最終的に冊子となるときの提示の仕方は、ご提示いただきたい。

もう一つ、次第、A4で1枚作ったのが、先生方が作った教科領域名と主題名、道徳については項目も入れた。どんな領域をどんな内容、規範、生命、自尊、思いやり、社会連帯のところがどの程度つくられているのか、または横軸で見れば、学年でどの程度資料があるのかを一覧で見ただけのようにまとめた。参考にさせていただければ。

今日の進め方、1年生から6年生までを小学校の先生方に検討していただき、7年生から9年生までを中学校の先生方に検討していただき、ある程度内容、項目をそろえていただく。もう一つは、1年生から6年生までと、7年生から9年生までの間でそれぞれ一つずつ資料を取り上げて検討し、その内容をほかのものに反映させていく。どちらが効率がいいか。

委員

私は小学校の指導案は自信がないが、門外漢が見たほうがいい。小学校は量が多い。

事務局

検討する内容は、すべて細かく見ていくと分科会に分かれても時間がない。最初に集まったときのプロットに則ったものを作っていると思うので、ある程度全部のものがそれに沿って統一できれば。項目については、活動のねらいから始まっているところもあれば、重視する指導項目で始まっているものがあり、統一していきたい。この資料を使って授業をしたときに、こちらでねらっている規範意識を身につけさせるために有効なものか、もう少しこれを入れたほうがいいのかどうか、または生命尊重にかかわるところ、これ以外のところでもかかわ

りのあるものがほかにもないか等も見ていただくと、視点が広がる。少し時間を取り、小中に分かれて進めていきたい。

(2班に分かれて討議)

事務局

二つに分かれての話し合いで、全体で確認をしたほうがいいのか、または共通理解を図っておかないと今後困るところはあったか。

委員

7年生からの五つの指導案を検討した。共通しているのは、生徒の自主性を使っていろいろな企画をやらせるものだった。この五つそれぞれ、規範意識や自尊感情、思いやり、社会連帯という今まで話してきたコンセプトとずれていない、こういうものをつくりたいと話に出ていたものがそろったのではないかとの感想があった。

中学校はどの程度の分量でいくのかという、具体的なところが次のステップでは大事。7年生以降は全部出たので、書式を整えたり分量をはっきりさせたり、ワークシートや資料の分量などが分かれば、第2稿に進める。

委員

小学校のほうも分量を考えていて、ワークシートをたくさん入れられずに今日まで来てしまった。形式的なところはどうか、これから統一していったほうがいいのかとなった。

指導計画の中のどこか1時間を取り上げたような、本時の指導案があると実際に活用しやすいのではないかと。ワークシートがあると、すごく参考になる。ワークシートやアンケート、どういうアンケートを取ったらいいかとか、途中で使うようなものについてもできるのであればいいのではないかとのことだった。

作りながら思ったのは各教科との関連である。教科、その学年で何が関連しているかも大事だが、今教えている内容が、過去の学年とあとの学年のどこと縦でつながっているかを書いておくと、この冊子を見た人も分かりやすくなるので取り上げられるといい。

事務局

共通して出たのが分量だが、これは4ページでいい。70ページぐらいを一つの部会でとの話があった。単純計算で、今〇がついているところが16項目あり、4ページずつ使って64ページ、前段階で全体的なところ、心の教育部会ではという前段部分を入れるとしても、70ページにうまく収まると思う。ワークシートとかアンケートなど、活用できるような資料もその4ページの中に入れられるといい。ただ、道徳の副読本をコピーしてそのまま載せるのは難しい。こういう場合は、「〇〇書籍1年道徳なんかを活用」という形で示していただければ、参考にして作った場合には、必ず書籍名を入れて参照、参考などと入れる。書き方はあとで統一するにしろ、どこの出版社のどの本、何ページのどこを参考にしたということは必ずはっきりさせたい。

書式について。小学校のほうでこれが分かりやすいのではと出たのは、例えば4年の「2分の1成人式をしよう」で、まず活動のねらいがあり指導計画、単元の指導計画で15時間扱い

とし、「これまでの成長を振り返ろう」が9時間分、そして「2分の1成人式をしよう」で6時間分、書かれている。指導計画の中に太線で囲ってあるところが、裏に「本時の指導計画」として載せている。そうすると見るほうは、分かりやすい。こんなふうにはほかも合わせられるといい。

もう一つ、各教科との関連の書き方。同じ学年のどこが関連するという横のつながりは分かりやすいと思うが、小中一貫を考えると1年から9年までの縦のつながりも意識するといい。

例で第Ⅱ期5年生理科の「誕生の不思議」、人の誕生の部分、生命尊重のところをこの第5学年では扱っている。それぞれの学年でも生命尊重にかかわる授業はある。ここでやったことが今まではこんな関連があり、子供たちがこんなところでも関連して学習するという意識を持ちながら先生方が指導することができる。そういう見方ができると、資料としてはより充実するのではないかな。すべての学年を取り上げるのは大変なので、特にここは関連しているポイントを取り上げればいいのかではないかな。

委員

私は各教科・領域との関連は、前に四つの部分で1年生から9年生までの表を作ったが、それではだめなのか。もし書き込むとすると、ありとあらゆるものがここに入ってってしまうのではないかな。特に思い入れがあることなのか。その辺の区切りがよく分からない。

事務局

キャリア教育の推進部会から提案があり、先生方につくっていただいた学習指導案は、4月23日に提示したものに沿ってつくっていただいているが、例えば第5学年の「誕生の不思議」、人の誕生のところを見ると、この学習活動のねらいは理科なのか、それとも心の教育の推進部会の関連的なものなのかどちらか。

委員

両方合わせたような感じにした。

事務局

でも理科だったら理科のねらいがある。だから、最初にこのねらいは教科、領域のねらいを書いてもらい、すぐ指導計画に行くのではなくて、本事例と心の教育の推進との関連といった書き方ができないか。これは何の指導案かとなったときに、理科の指導案だが心の教育の推進部会として、五つの柱を子どもたちに考えさせたり認識させたりするためにこの指導案が大事なのだと考えており、なぜ大事なのかを書いていただく。さらに小中一貫教育校でこのことを行い、ここでそれを取り上げている理由づけみたいなのが書けたらいいのではないかな。

したがって、1番が活動のねらい、2番が指導計画と最初に示したが、1番にその教科なり領域のねらいがあり、2番にこの本事例あるいは本学習活動と心の教育の推進との関連、という項目をつくって、3番に小中一貫教育校で期待される効果を書いて、指導計画を4番目に。

これは一体何の学習指導案なのかという疑問を抱く方がいると思う。皆さんの資料を読むと、これは道徳のねらいで書いているとか、これは心の教育の推進としてということがある程度読み取れる。その中に縦や横のつながりがうまく散りばめられればいい。それで足りない部分は

後段に各シフトの関連といった書き方をしていただいてもいい。

委員

指導計画は、この誕生の不思議のように二つに分けてやる形で書けばよいのか。

事務局

濱元先生は表にされていて、相田先生は文章である。そこはどうか。

ほかはどうか、書き方の問題。意見をいただきたい。本時の展開はこの学習指導案を見て、どの先生でもこういう発問があるとか、こういう資料を使う、このワークシートを使うのだと分かることも大事だが、単元の指導計画のところまでそれを縛るかどうか。

事務局

指導計画の書き方がどうであるにしろ、この部分を本時にしたとうまく示されていたほうが見やすい。文にしても、そこを太字にするとか、囲むと分かりやすい。

事務局

中学校部会であったのは、ものがないとやれない、新しいことを考える、この1時間はあるけど2時間目と3時間目がないのでは使えないのは困る。本時に使う資料については、例えば学習指導案B(案)「大北中 小林」と書いてある、いじめ防止キャンペーンのもの。これを全部入れてしまうと膨大な量になるので、収め方をどうするか。冊子に収めるけれども、それ以外のプラスアルファをどうするか。小林先生がワークシートをたくさんつくったのはどれか。

委員

9年の社会科公民、「より良い街を作りたい」。これは社会科なので具体的なものを入れないと厳しい。

事務局

相田先生の赤いものがついている「職場体験を通して学ぶ思いやりの心」、これはその本時に使うのは(2)だが、(3)(4)(5)でそのあと使うワークシートもつくっている。

例えばこの部分を精査して、後ろのほうは電子データだけ CD-ROM に収めて紙にはしないという方法もある。

委員

指導案だけだったら4ページになると思う。

事務局

学習指導案で本時のワークシートは最低つけて、発展の部分は CD-ROM を見てもらう。

事務局

では何時以降の使用ワークシートは CD-ROM 内の資料を参考という形。基本は4ページで、

それ以上に使うワークシートなどについては、冊子には入れないが資料として渡す ROM には入れ込むという考え方にする。

アドバイザー

先ほどの話の中で、活動のねらいと指導計画の間に二つ入れるかどうか提案があった。2番目の部会がどう捉えているかとの関連、これは書ける。もう一つの提案の9カ年の一貫教育云々は書きにくい。9カ年の一貫教育の中でというのは、2の中に含まれてしまうのではないか。さっきも出たが、去年1年かけて作成した縦横の関係のマトリックスの表がある。一貫教育の関連は、それを参照ぐらいでいいのではないか。皆同じになるのではという書きにくさがある。

事務局

いじめ防止キャンペーンは7学年で提案していただく。この7年だけで収めるか、それとも中学校の校舎にいる五つの学年を一緒にしてやるか。

まだ形にはなっていないが、そういうときに3番を立ててもいいのかなど。基本的には1番、2番という指導計画の形でいいが、ここはせっきく9学年が一緒にそろっている学校で使うのなら、その項目を使えば書きやすい事例があると考えていただけるとありがたい。

委員

話を戻すが、五十嵐先生が提案した1、2、3、4は書くときに困った。一つはここで扱う学習活動のねらいとか、何をねらっているのかを書き込まなければいけないと思った。もう一つは心の教育の推進部会として、なぜここに社会科の教材を持ってこなければいけないのかという理由づけも書かなければいけないと思った。

あくまでできあがるのは心の部会の冊子であって、社会科の教材集をつくるわけではない。1の活動のねらいの中で、小中一貫のⅢ期にあたる活動での位置づけとか、規範意識を考えたときに新指導要領の社会科の部分とリンクする部分があるから、社会科で規範意識の教材としてノミネートしてやるということを1に書いた。

ただ、それだけではここで扱う教育活動のねらいが出てこないで、2の指導計画の1に単元のねらいを書き、(2)のところは表にすればいいと思う。単元の指導計画、第1時、第2時、第3時。できればこの次に具体的な、当時間の細かい指導案がついて、それが(3)になる。最後に3で実施する教科・領域との関連みたいな形でいくのでいいのではないか。あまりはつきり分けてしまうと書きづらい。

事務局

ということは、心の教育の部会との関連を先に持ってきたほうがいいのではということか。

委員

まずそれを書いて、そこから、なぜこういう教材になっているのかに落とし込んでいくような載せ方を考えてみた。

事務局

順番を入れ替えるだけの単純さではないので、ちょっと預らせていただく。

アドバイザー

今の話だと、その活動のねらいの中に全部含まれている。心の部会でなぜこれを取り上げたのか。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ期でどうなのかという位置づけが。

部長

これは各部会とも統一でいっているのか。

事務局

キャリア部会から出た統一してもらいたいという提案を、それぞれの部会に諮っているところだ。本部会でこの話をしていなかったなので、唐突にお話しした。最初の構想では、小林先生に書いていただいたような形で足りると思っていた。

アドバイザー

それを項目として起こすかどうかということという気がした。

事務局

そのほうが書きやすい部会と、心の教育の部会のように最初にどんとあったほうがいいので、なじまないという部分もあるかもしれない。体力やキャリア、表現力もそうだが、どちらかという活動のもともとのねらいがあり、そしてこの部会でやっていく価値といった形で書いたほうがやりやすいかもしれないという話だった。

委員

去年も含めて、心を育てるには何が大事なのかポイントを絞っていこうと、この五つを出した。その中でもそれぞれの学年で何をやるといいということから落とし込んでいく。そういう大前提からねらいがあり、だからここにこういう教材を持ってきたのだという落とし方で書くと、全部つじつまが合うのではと思いつつ書いた。

事務局

もともと心の部会はマトリックスの捉え方を各項目にしているの、よその部会ともスタートのところから若干違う。縦軸とか、問い方も違う。ただやらんとしていることは同じで、先生方の作りこみ、思考がそのように流れるのであれば、あとは事務局で作文をいかにするか。

事務局

そうなる指導致案の書き方は、先生たちが今日書いているように1. 活動のねらい、2. 指導計画、その中に授業案が入り、実施する各教科・領域との関連、ワークシート、資料、その他といった感じで進めて、活動のねらいのところには部会としてのねらいをちゃんと入れて記述することを確認する。

アドバイザー

活動のねらい(1)何々、(2)何々といったものが入れれば満足するのではないか。
本来、活動のねらいを最初に持ってきたのは、部会ごとの特色を出してということだった。

事務局

心の教育の部会では、特に規範意識や生命尊重で分けて考えているので、そのどこをねらってこの案を立てているのかをはっきり書くことを意識していただきたい。10月末が原稿の締め切りなので、今日の指導案を修正すべきところは修正し、形式についてそろえていただくことがある。次回までにそれをお願いしたい。

私のほうで最終的な心の教育部会のページの割付は、昨年度検討した表を元に考えて、規範意識、生命尊重、自尊感情、思いやりの心、社会連帯の自覚の順番で、規範意識のⅠ期1学年、Ⅱ期5学年、Ⅲ期9学年といった順番。その次に生命尊重のⅠ期2学年、Ⅱ期5学年、Ⅲ期…といった感じで割り付けていく流れでよいか。

これの特にここを使い、ここを今回取り上げたということも全体の表の中でうまくいくと思う。そのように次回までに割付を考えたい。順番を考えて最終的にはこんな感じとして皆さんにイメージを示したい。

アドバイザー

技術的にポイントを落として落とし込むのはまずいのか。

事務局

できると思うが、あまりキツキツではいけない。最低上下左右から2cm ずつは開けておかないと、製本したときにまずい。

委員

ページによってポイントが全然違っていても構わないのか。

事務局

指導案の中で言えば、大きなところは一緒にして、あとはちょっと小さくするとか、表の中のポイント数は10.5ではなくて8にするとか、それは大丈夫だと思う。おそらく普通につくってくると10.5ポイントになる。それになると思う。

部長

確認で、ページ立ては規範意識でまず順番に並べていけばいいのか。

事務局

そのほうが心の教育の部会として、項目立てを考え、その中の指導の流れとしていける。

部長

4ページという基準があるが、2ページで足りるところはないか。そういうところがあれば6ページのところをつくってもいいとか、その辺はどうか。

事務局

それは、今回もう一回やって、次回最終調整になると思う。

まとめるときにやりにくいのは、奇数ページになること。2、4になればありがたい。もし2ページのところが出てきたら、どこかが6になる可能性はもちろんある。

まずはできるだけ4ページでお願いできれば。資料については、本時で使う以外のものはCDには載せるという考え方もできる。

委員

できるだけワークシートをつくったほうがいいということ。

事務局

では、次回の日程を設定したい。8月30日月曜日、16時から。場所は通知する。9月は、21日火曜日、同じく16時から。

次回には今回つくっていただいたものを確認したことを元に、修正をしてデータで送っていただければ印刷しておく。

アドバイザー

これまで検討してきた内容が生きているように思える。心についての検討が原稿あるいは案の中にはにじみ出ている。あとはブラッシュアップと全体の調整だ。

本部会は心の教育についての諮問をいただいたので、それに答える意味では、先ほど指導主任の先生と話したが、いわゆる心の教育として重要だと思われる重点項目に沿ったもののほうが、形式としてはいいと思う。

もう1点、単元として出すもの、道徳の場合は単元として出すのは難しいので、その辺りは最後にそろえて、教育課程論から見て矛盾がなく、齟齬が出ないようにしたい。何回か繰り返すうちにいい方向にシフトしている。なお一層、最後まで詰めを怠らないでやっていただければありがたい。